

「特集」  
ひと

まちの暮らしを彩るプロデューサー

# 辻田 香恵子

Kaeko TSUJITA

世の中はウィズコロナの不安な状態、  
一体いつまで続くのか……出口が見えない。  
それでも今生きている以上、  
どうせなら明るく過ごしたいもの。  
今回は日々の暮らしに彩りを添え、  
どんな時にも前向きに人生を謳歌する一人の女性、  
辻田香恵子さんをご紹介します。



### ボンジュール マダム!

大阪狭山市、近畿大学病院の  
ほど近く、西山台の住宅地の一角  
に何やら楽しい小さな雑貨屋さ  
ん。看板には「CoCoあんしや  
んて」。中へ入ると、店の主らしき  
女性が華やかな笑顔で出迎えてく  
れました。何気なく着けられた深  
紅のイヤリングがおしゃれ。このお  
店のオーナー、マダム香恵子こと辻  
田香恵子さんです。招かれて奥に  
進むと様々なジャンルの商品が所  
狭しと並んでいます。指輪、ネック  
レス、ブレスレットなどのアクセサ  
リから、バッグ、財布、スカーフ  
といった服飾小物、軽い仕立ての部  
屋着におしゃれなアパレル商品  
もずらり。更にテーブルスタンドや  
タペストリーといったインテリアアグ  
ッズまで。一見雑多に見えるそれらが  
不思議と調和しているのです。驚い  
ている気持ちを察してか、香恵子

さん「このようなお店で大事なこ  
とは、店主もお客様も互いに飽  
きないよう心がけること。人を  
飽きさせない、それが、商いの原  
理だと思うので努力しているの  
……。」と。実は香恵子さんは大  
阪市中央区(旧南区)、旧高島屋  
東別館の辺り「御蔵跡」の生まれ。  
かつては「東の花川戸(浅草)、西  
の御蔵跡」と呼ばれ、100軒以  
上の履物問屋が軒を連ねた商人の  
街です。彼女の商いの哲学はここ  
が原点でしょうね。

「ここには今日もマダムとのおしゃ  
べりが楽しみで、それをお目当てに  
お客様がやってきます。衣服の  
コーディネートアドバイスからプレ  
ゼントの見立て、なんてことない世  
間話……果ては旦那の愚痴まで!!  
まさに街のレディエスサロンです。  
日本の四季折々に関する小物や陶  
器の販売からスタートし、お客の  
ニーズを探りながらヨーロッパのアン

らす人たちの変化に合わせて、お店  
も少しずつ変えてきた。まちと一  
緒に歩んできたから今がある  
……。」と。  
店名の「あんしやんて  
(Enchante)」はフランス語  
で「はじめまして」や、「とてもう  
れしい」という意味。「新しい物と  
の出会い、心のときめき、人とのつ  
ながり」を大事にする香恵子さん  
のお店にぴったりの名前です。☺

### コーディネートするよろこび

ティーク雑貨や洋服も取り入れて  
きました。少しでもお客様の心を  
豊かにするお手伝いができれば  
……というのが香恵子さんのモッ  
トなのです。

結婚後はフリーで当時はまだ珍  
しいインテリアコーディネーターとし  
て活躍。モデルルームや店舗のデ  
スプレイを任される中、更なるス  
テップアップを目指し2級建築士の  
資格を取るために夜間の専門学  
校へ通います。四十路もすぎても挑  
戦。仕事と子育ての二足のわらじ  
に加えての猛勉強。若い学生達と  
切磋琢磨し見事合格を手にしま  
す。生活空間を演出することの楽  
しさを感じた香恵子さんは自身の  
お店を持つことを決めます。そ  
れが今から25年前、「CoCoあ  
んしやんて」の始まりです。

それまで培ってきた経験を活か  
し、それぞれのライフスタイルに寄  
り添った接客を心がけてきました。  
そんな香恵子さんの心遣いの表れ  
が手描きの熨斗紙。季節の草花や  
風景を水彩で描きます。「同じ商  
品は百貨店でも買えるかもしれな  
いけれど、この熨斗紙は世界にこ  
こだけ。それを目当てに足を運ん  
で下さる方に私は心ばかりのお福  
分けをしていますよ。」

### いつでも前向きに

明るく元気な香恵子さんです  
が、10年程前に大病を患いました。  
仲良くしていたご近所さんが癌で  
亡くなったことをきっかけに健康診  
断を受診。血液の癌でした。幸い  
初期の発見でしたが、薬の副作用  
で髪が抜け落ちてしまった時も、  
「今日はどのウィッグにしようか  
な。」とお洒落心を絶やさず闘病  
生活を乗り切りました。今ではす  
かり快復し、ご主人とたまのゴル  
フと毎年のスキーを楽しみに、毎朝  
のトレーニングと週に一度のヨガを欠  
かさなない、はつらつそのものです。  
コロナの緊急事態宣言中も閉古  
鳥が鳴こうが何のその。持て余し  
た時間は有効活用。マスクが不足  
し手に入らない中、可愛いチャーム  
を付けたガーゼマスクを作っては、  
一筆一筆書きのメッセージを添え  
て周りの方にプレゼント。その数な  
んと300枚!コロナを吹っ飛ばし  
てくれそうなポジティブさ。

「ここには今日もマダムとのおしゃ  
べりが楽しみで、それをお目当てに  
お客様がやってきます。衣服の  
コーディネートアドバイスからプレ  
ゼントの見立て、なんてことない世  
間話……果ては旦那の愚痴まで!!  
まさに街のレディエスサロンです。  
日本の四季折々に関する小物や陶  
器の販売からスタートし、お客の  
ニーズを探りながらヨーロッパのアン



香恵子さんも最初は企業に就職  
をしました。当時は大阪万博の建  
設期。銀行や証券会社への話もあ  
りましたが、ものをゼロから創り  
上げる魅力を感じ、大手ゼネコン  
に入社。男性社員が多い中、持ち  
前のパワーで仕事に打ち込んでいた  
のですが、結婚を機に退職。お相  
手は同じく建築に携わる男性。てっ  
きり仕事の関係の方かと思いきや、  
中学の同級生というから驚き。「隣  
のクラスの男の子。」とにっこり。



### ひとをつなぐ場所

香恵子さんは言います。「売って  
いるものはハード(商品)。だけど、  
それと一緒にソフト(気持ち)を  
伝えることが大事。お客様にとっ  
て今何が必要か、まちやそこに暮



**CoCoあんしやんて**  
大阪狭山市西山台3丁目2-6  
TEL:072-368-3558  
[営]11:00~19:00 [休]日曜日

